

英語英文学科 3年

留学先：オーストラリア

ディーキン大学

留学期間：2022年8月～2023年2月

私が留学中に心掛けていたことは、単語力の向上とそれを実際に会話で使えるか、そして積極性です。私が留学前に1番感じていた問題点は単語力の低さでした。当たり前のことではありますが、単語を知らないと言いたいことを伝えることはできないし、リスニングの上達も不可能です。大学受験のために中高で単語を多く覚え、大学でもインテンシブクラスの授業でたくさん覚えました。しかし、それを実際会話の中で使うとなると、単語の意味は知っているにも関わらず、頭が真っ白になりまったく話すことができませんでした。それは、単語を覚えるという作業だけで終わらせていたからです。正直、留学前は留学中に話すことに慣れたら単語も自然と身についてくるだろうと安易に考えており、1つ1つの単語を覚えて、自分自身で例文を作りスピーキングの練習をするというのはとても時間がかかる作業なので、あまりやっていませんでした。留学が始まり最初の1ヶ月は、聞くこともできなければ、失敗することが怖く話す勇氣もなかなか持てず、どうしていいかわからない1ヶ月を過ごしました。その時、「自分に今できることはなんだろう」「何をしたら自信を持てるだろう」と考えました。そこで私は、授業中に出てきた知らない単語、友達や先生が会話中に使っていた表現をすぐにメモし、放課後に復習をし、その覚えた単語を次の日に会話で使ってみることを目標にすることが今の自分にとって必要な勉強方法であると考えました。初めはなかなか会話の中で覚えた単語を実際に使うことは苦戦しましたが、だんだんと慣れていき、昨日より友達と話そうという心掛けで毎日過ごしました。そして、友達との意思疎通ができると自信がつき、話すことが怖くなくなりました。知っている単語が増えると、リスニングもよく聞こえてくるようになり、ホストマザーと話していると、その日に授業で習った単語をホストマザーが使っていたりすることが多く、なんだかとても嬉しい気持ちになりました。なかなかすぐには目に見えるほど大きい成果を出すことは難しかったですが、今日はこの単語を使おうなどの小さい目標を毎日たて達成していったことによって、結果的に学校では仲良い友達ができ、充実した留学生活になりました。この勉強法は間違っていなかったと思っています。

そしてもう1つは積極性です。海外に行けば、自然と英語は習得できるという考えを時々耳にしますが、想像していた以上に積極的に話さないと海外にいても話す機会を作ることは難しいことを知りました。今は、スーパーなどはほとんどセルフレジで店員さんと会話せずに買い物はでき、英語があまり話せなくても、生活することは難なくできます。初めての1ターム目は自信もなく話す機会を持つことが億劫になっていましたが、2ターム目の授業から授業中に発言や質問、友達との会話でどのような言い方をするか思い浮かべなくてもとりあえず話を切り出してみるなど、を繰り返すうちに英語を話すことへの恐怖がなくなりました。また、失敗を恐れることも、「失敗したから学ぶことができる」また「間違えた言い方や単語こそ記憶に定着する」と考えたことによって、失敗の怖さがなくなり、積極的になれたように感じます。日本にいたときには想像できないほど多くのことを学び、語学だけでなく人としても成長できたとても価値ある留学でした。